

第5章 施策推進のための取組

基本方針 1 生涯スポーツの推進

1 生涯スポーツの環境整備

現状と課題

☞小中学生を除く10代以上を対象としたアンケートによると、スポーツ習慣について「現在、何かスポーツをしていますか。」の問いに対し、「している約46%」、「していない約52%」、「無回答2%」となっています。

この「していない」と回答した人は、スポーツをするための条件として、「スポーツを行う時間的な余裕があれば」、「体力や好みにあったスポーツができれば」、「身近なところにスポーツ施設や場所があれば」、「一緒に行く仲間がいれば」を上位に挙げており、スポーツへの参加を推進していくためには、いつでも・身近で・気軽に・交流の場として参加できる環境を整えることが必要です。

取り組む方向性

■スポーツ活動をする機会の充実■

・誰もが気軽にスポーツを楽しむことができるよう、ライフスタイルやニーズなどに応じて、自主的に参加できるスポーツイベントの開催を促進します。

・平成27年（2015年）に開催された、第28回全国健康福祉祭（ねんりんピック）を契機とし、スポーツを「する」ことのみに限らず、「観る」（観戦する）、「支える」（応援する・運営する）活動に参加できるよう、生涯にわたってスポーツに関わることのできる環境の整備に努めます。

■スポーツへの積極的な参加に向けた普及・啓発■

・スポーツへの関心と理解を深め、スポーツへの「する、観る、支える」立場からの積極的かつ多面的な参加を促進するため、地域におけるスポーツ推進の中核となる「スポーツ推進委員（＊）」と連携し、「いつでも、どこでも、いつまでも」参加できるスポーツの普及・啓発に努めます。

・スポーツに対する関心とスポーツを行う意欲を高めるため、スポーツで優秀な成績を収めた選手やスポーツの普及・発展に尽力し、又はスポーツの振興に顕著な功績があった個人・団体を表彰します。

（＊）スポーツ推進委員：スポーツ基本法第32条第2項で定められたスポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整や市民に対するスポーツの実技指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う方々です。

2 地域スポーツ推進拠点の整備

現状と課題

☞地域で市民が主体的に参加できるスポーツ環境を整備することは、生涯を通じたスポーツ活動の基礎となるものであり、総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツクラブが地域スポーツの拠点となり、活動することが理想です。しかしながら、市内には総合型地域スポーツクラブが2団体しか存在しておらず、市内全域に活動範囲が広がっていない状況にあります。

☞総合型地域スポーツクラブを対象に、山口県が平成24年度に実施した「活動状況調査」によると、運営を継続していく上での課題として、「会員の確保（増大）」「指導者の確保」が上位に挙げられます。

☞誰もが気軽にスポーツを楽しむことができるという観点から、総合型地域スポーツクラブを今後地域スポーツの拠点としての役割を担うことができるよう、計画的な育成と活動の充実を図ることが必要です。

取り組む方向性

■ 総合型地域スポーツクラブ設立の拡大・充実 ■

- ・今後、既設の総合型地域スポーツクラブを先進事例とし、地域活性化の拠点となる新規クラブの設立を図ります。
- ・総合型地域スポーツクラブの設立・運営の上で、最も重要になるのがクラブマネジャーの養成・確保であり、それを図るため、クラブマネジャー講習会等への参加を促します。
- ・総合型地域スポーツクラブ山口県連絡協議会などと連携することにより、クラブ間の情報交換や先進的な取組を学び、マネジメントの習得に努め、総合型地域スポーツクラブの地域への定着・発展を図ります。



総合型地域スポーツクラブ「すげえちゃ・高泊」

3 健康及び体力の保持増進

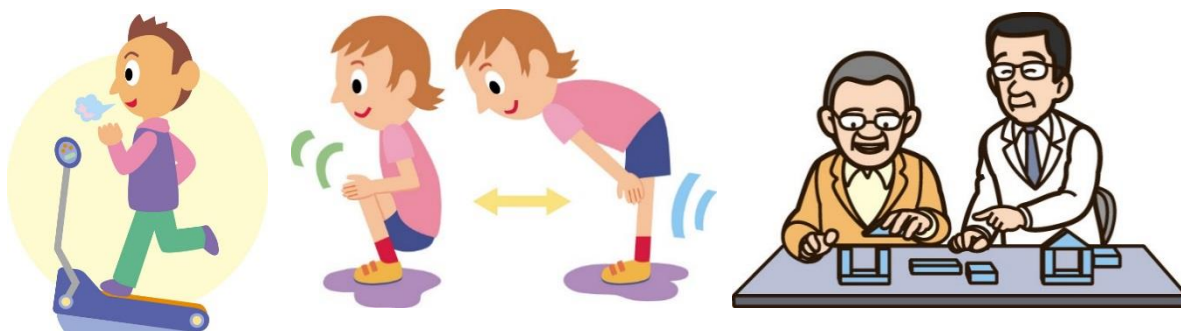
現状と課題

- ☞ 20代から50代までの人は、他の世代と比較して運動習慣のある人の割合が低いという現状を踏まえ、運動習慣定着の促進と意識の高揚が重要です。
- ☞ 介護予防の視点から、加齢に伴う体力、運動能力の低下を防止するため、社会生活に必要な運動機能の維持・向上を図るなど、青年期からの対策を積極的に進めることが必要です。
- ☞ 一人でも多くの市民が日常的にスポーツに取り組むことができるよう、活動しやすい環境を整備することが必要です。

取り組む方向性

■ 健康づくりの積極的推進 ■

- ・生活習慣病予防対策に関連する施策等に取り組むとともに、健康運動指導士や市民ボランティア等と協働し、市民健康体操「S O S おきよう体操」などを積極的に推進しながら、健康寿命の延伸を目指します。
- ・高齢期においても、社会生活に必要な体力・運動機能を維持するために介護予防対策に取り組めます。



4 障がい者スポーツの推進

現状と課題

☞ 障がいのある人がスポーツに参加する環境が十分でない中、スポーツを通じて、障がいのある人も、ない人も誰もが相互に人格と個性を尊重し、支えあう共生社会への一助となることが期待されます。

☞ 障がい者スポーツの更なる普及や発展を図るため、自主的かつ主体的に参加できる環境づくりを推進していく必要があります。

取り組む方向性

■ 障がい者スポーツの機会創出 ■

・障がい者スポーツについての啓発及び情報発信などを促進し、誰もが楽しめる環境整備に努めます。

・障がいのある方の自立と社会参加、交流の促進を図るため、各種スポーツ大会の開催や参加機会の拡大に努めます。



パラサイクリング合宿

基本方針 2 競技スポーツの推進

1 競技スポーツの環境整備

現状と課題

☞各スポーツ競技では、体育協会に加盟しているスポーツ団体をはじめ、スポーツ少年団や職場等で活動している団体等は、地域における子どものスポーツ活動の場として重要な役割を担っています。しかし、少子化の進行や指導者の高齢化などの社会情勢の変化などから、子どものスポーツ離れや体力の低下等様々な課題も生じており、環境の変化を踏まえながら競技スポーツの活性化を図ることが必要となります。

本市のスポーツ少年団の登録状況は、平成27年4月現在、14種目、52団体、団員数は997人（男子679人、女子318人）となっています。

市内の児童数に占める加入率は27.5%で、県平均25.7%を上回っているものの、団員数は、年々減少傾向にあり、各小学校の枠を超えて結成されたものもある状況です。

取り組む方向性

■スポーツ少年団活動の充実■

・多くの子ども達が、地域に根ざしたスポーツ少年団活動を通じて、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を身につけることができるよう、市体育協会等の各関係団体と連携して幼少期からの計画的な育成に努めます。



■ 指導者育成の推進 ■

・指導者が、各スポーツでの優れた指導者から講習等を受けることで、市内の競技スポーツ力の向上へつなげるよう支援します。



スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会

基本方針 3 「人財」の育成

1 将来を担う「人財」の育成

(1) 子どもの体力向上・豊かな人間性の涵（かん）養

現状と課題

☞ 少子・高齢化や核家族化による家族形態の変化、地域社会の繋がりの希薄化等が懸念される中、子ども達の心身の健全な成長を促すためには、幼少期からスポーツに親しむことが必要です。本市においても、子ども達がスポーツを経験する上で重要な役割を果たしているスポーツ少年団活動等の充実を図り、子ども達がスポーツに親しむ機会の確保・充実を進めることが必要です。

取り組む方向性

■ スポーツをする機会の充実 ■

- ・地域で子どもがスポーツをする機会の充実・確保を図るため、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を支援します。
- ・スポーツ少年団活動の活性化や指導者の育成・資質の向上等を通じて、子ども達がスポーツに親しみ、運動の基礎動作を身につける機会の充実を図り、あわせて、公正さや規律を尊ぶ態度や克己心を養うなど、心身の健全な育成を図ります。
- ・身体のためのスポーツだけでなく、子ども達が豊かな人間性を涵（かん）養するため、トップアスリートによる事業を積極的に取り入れます。



夢先生事業

(2) 学校体育の充実

現状と課題

☞子どものスポーツ離れが懸念される中、生涯にわたり運動やスポーツに親しむためには、体育の授業や運動の部活動などを通じて、スポーツの楽しさに触れることや、自分にあったスポーツを見つけることが必要です。

このため、子どもの実態を踏まえた地域と連携した取組が必要です。

取り組む方向性

■運動習慣の定着■

・本市の子どもの体力等の状況を把握しながら、運動習慣の定着と体力向上を図っていくために、学校生活においても子ども達が定期的・継続的に運動を行う場や時間の確保に努めます。

・子ども達が運動の楽しみを味わい、自分に合ったスポーツを見つけることができるよう、食事・運動・睡眠の生活リズムの形成に向けた取組の充実を目指します。



マラソン大会

2 スポーツを支える「人財」の育成

現状と課題

☞「おいでませ！山口国体・山口大会」の開催では、多くの人がボランティアとして大会運営に携わったにもかかわらず、小中学生を除く10代以上を対象としたアンケートによると、「スポーツボランティア制度を知っていて、かつ、登録・参加したことのある人」が約2%という現実を踏まえ、スポーツボランティア制度の普及・啓発が必要です。

☞市民のニーズに応じたスポーツ活動が楽しく安全に、また効果的に行えるよう、スポーツ推進委員やスポーツ指導者及びクラブマネジャーなどの多様な「人財」を育成し、有効に活用することが重要です。

取り組む方向性

■ 支える「人財」との連携強化 ■

・大規模なスポーツイベントの開催や地域のスポーツ活動において、スポーツを支える「人財」の存在は重要であることから、山口県と連携し、スポーツボランティアの登録制度の活用を図り、スポーツ活動への参加を促進します。

・地域スポーツの推進を担うスポーツ推進委員やスポーツ指導者及び総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャー等との連携の強化を図ります。



厚狭地区三市スポーツ推進委員研修会



スポーツボランティア

基本方針 4 地域の活性化と環境整備

1 スポーツによるまちづくりの推進

現状と課題

☞全国の多くの自治体は、スポーツによる地域活性化に高い関心をもっています。スポーツを通じた地域活性化に対して「（非常に・やや）関心を持っている」とする地方自治体は全体の7割近くになっています。

本市もスポーツを通じて、県内外から多くの人を訪れており、今後もスポーツイベントの開催を通じて、地域の活性化を図ることが必要です。

☞山口県のプロスポーツチームであるレノファ山口のホームタウンに平成26年9月に承認されました。レノファ山口とパートナーシップを組んで、様々なまちづくり事業に取り組んでいく必要があります。

取り組む方向性

■ 魅力あるスポーツイベントの開催 ■

・「我がまちスポーツ」であるサッカーフェスティバルや鉄人ゴルフコンペ等続く魅力あるスポーツイベントの開催や、プロスポーツチームの活用等、スポーツ・ツーリズム（*）を積極的に展開し、交流人口の増加を図り、市外への情報発信や地域活性化を推進します。

（*）スポーツ・ツーリズム：スポーツのイベントやレジャーを観光資源として生かすこと。スポーツ観光とも言われています。



レノファ山口サッカー教室



山口国体 ゴルフ競技

2 施設整備の充実と利用促進

現状と課題

☞市民体育館等公共スポーツ施設の利用が過密化している状況で、地域住民の多様なスポーツのニーズに幅広く対応するため、学校施設を含む施設の利用促進を図る必要があります。

☞市内の公共スポーツ施設は経年劣化が進んでいるため、補修や改修を行う必要があります。

取り組む方向性

■スポーツができる環境整備・施設の確保■

・休日等の利用促進を図るため、市民の利便性を考慮し、大学や市内の各企業が所有しているスポーツ施設の利用に対し、引き続き協力を得るよう努めます。

・老朽化が進む公共スポーツ施設の計画的・年次的な補修に努めます。



プロ野球OB 少年野球教室

第6章 計画の推進体制と進捗管理

1 推進体制

(1) 市民との連携

生涯スポーツの実現を図るため、市民一人ひとりが自ら健康づくりやスポーツを「する・観る・支える」活動に参加し、多様な関わりを通じて市民の誰もが心身ともに健康で暮らせる体制づくりに努めます。

(2) 学校や地域との連携

子ども達や地域住民の多様なスポーツ活動の充実に向け、学校と地域が一体となって地域におけるスポーツ環境づくりを推進するとともに、総合型地域スポーツクラブや企業等とも連携できる体制づくりに努めます。

(3) 体育協会等スポーツ団体との連携

競技力の向上や競技人口拡大のため、山陽小野田市体育協会に加盟している各スポーツ団体をはじめ、スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ等市内のスポーツ関係団体の活動を支援するとともに、相互交流を促進し、各団体がスポーツに取り組みやすい体制づくりに努めます。

(4) 行政の連携

計画の実現には、スポーツの持つ多面的な役割を十分に生かすため、スポーツ分野に限らず、健康・福祉・経済・観光・建設・教育等の各分野の施策との連携も図りつつ、国や県とも緊密な連携・協力を仰ぎ計画の推進に努めます。

2 計画の進捗管理

「山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画」の進捗管理に当たっては、市の担当部署において進捗状況の管理・検証を行います。